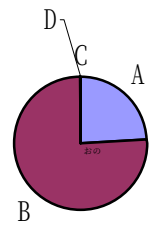
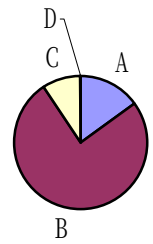
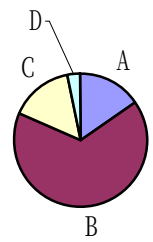
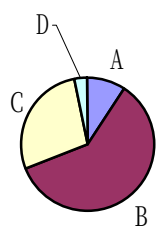
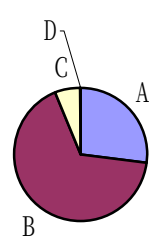
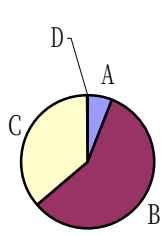
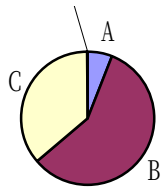
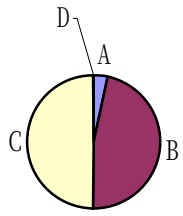
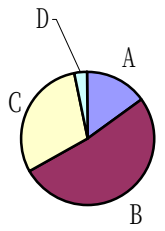
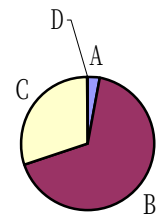
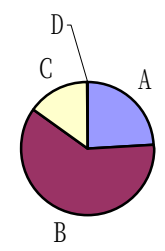
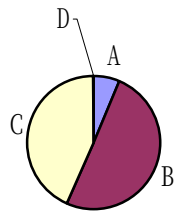
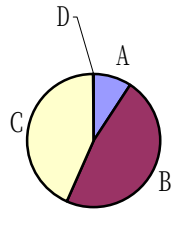
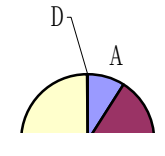
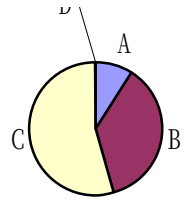
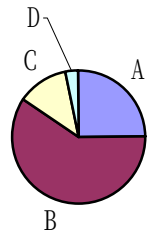
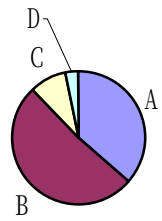
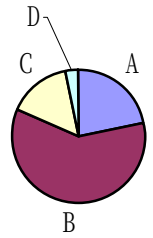
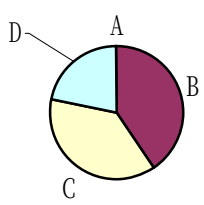
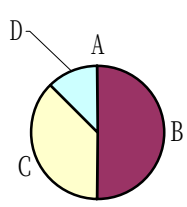
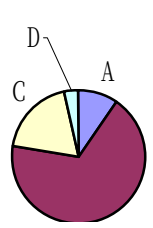
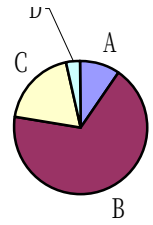
平成17年度　青雲高校　学校評価シート

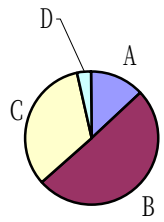
領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果		自己評価
	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	実践目標	**青雲通信などの定期的な発行や学校HPの有効な活用を図り、学校･家庭･地域との連携を円滑に進める。**	
			成果	青雲通信・学校ＨＰともに充実し、生徒からも「有効に活用している」という声が多かった。今後の課題として、①ＨＰの更新回数をもっと上げる、②様々な発行物とＨＰ等の連携を図る、③内容の精選を行う等が挙げられる。	
			実践目標	**学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭･地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。**	
			成果	学校行事の中では、文化祭において、地域の人々や特に小学生の参加が非常に多く、盛り上がりを見せた。「本校教育活動に対し理解と協力を得る」という面で大いに評価できると考える。一方、本年度新たに「地域貢献事業」として学校周辺の清掃活動を実施したが、地域の方々との連携をもっと図ればより効果的に行えたのではないか。来年度の課題である。	
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	実践目標	**学校評議員の全委員を一新し、新たな視点や観点から本校の教育活動に対する意見を聴取し、学校運営に反映させる。**	
			成果	平成１７年２月１日から１年の期間で、新たに５人の方に評議員をお願いした。本校卒業生、地域で青少年の育成や障害を持つ人達の生活等について指導的立場にある人、大学教授、教育相談カウンセラー等である。夏と冬に計２回集まっていただき、本校教育活動について新鮮で有用な意見をいただいた。例えば、生徒の就業体験活動についていただいた意見をもとに、インターンシップに取組む計画を立て、現在、具体的な実施方法を検討している。この１年で、大よそ通信制独特の学校運営システムを理解していただけたので、来年度も同じ５人の方に評議員をお願いし、より多くの意見を聴取したい。	
			実践目標	**学校評議員に本校ＨＰの閲覧及びスクーリングの参観をしていただき、それについての意見を聞き、情報発信方法や授業の改善に役立てる。**	
			成果	第１回の評議員会は８月２１日に開いた。主な議題は、本校が取組んでいる「ＩＴを利用した新たな教育システム」についてであり、情報企画部長が、学校ＨＰによる情報発信の現状、クラスサーバー等の活用状況、メールによる質問・相談体制等について説明した。評議員からは、①学校ＨＰが充実しているのに感心した、②インターネットスクール等はもっと進んでいる、③生徒の理解度に合わせて数段階の教材が用意できないか、④意欲のある教師を積極的に集めるべき、⑤施設設備の充実も大事だ等の意見を得た。また、２回目の評議員会は１２月１１日に開いた。地歴公民のスクーリング(授業)を参観後、教務部長が教務規程を中心に通信制の教育システムを説明した。評議員からは、①スクーリングは落ち着いた雰囲気で行なわれており、生徒の多くは前向きな態度だった、②発問など生徒と会話しながらの授業展開ができないか、③神出学園やフリースクールに出向いての学習支援活動はできないか、④特別支援対象生徒に対する支援の仕方が今後の課題だ等の意見を得た。今後の本校教育活動に活かしたい。	
		生徒指	実践目標	**安全な学校、より良い学校の創造を目指し、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を押し進める。**	
			成果	限られた人数でよくできたのではないか。スクーリング日には毎回、生徒指導部を中心に校門立番や校内巡視を実施した。校内の安全が保たれ、生徒が安心して活動できるのに、一定の効果があったと考える。また、本年度は「校内全面禁煙」１年目であった。喫煙者の戸惑いもあり、校内から吸殻がなくなった訳ではないが、校内で喫煙しようとする生徒も指導には素直に従うようになってきて、「校内全面禁煙」は定着しつつある。今後とも、「校内全面禁煙」への継続した指導及び「禁煙支援」をすることが必要である。	
			実践目標	**生徒の学校行事への積極的な関わりや参加数の増加のための方策を研究･工夫し、帰属意識の涵養を図る。**	

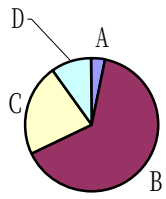
学校運営	生徒指導	導方針の確認と指導体制の推進	成果	各行事について、生徒会が主体的に取組むことができた。文化祭では久しぶりに柏原協力校からの参加もあった。全日制高校の文化祭と変わらない盛り上がりに、生徒からも保護者からも「青雲に来て良かった」との感想が多くあった。本校の生徒の中には学校行事等に参加しにくい者も少なからずいるが、スクーリングや学校行事の数日前に、電子メールを使ったクラス内メールで参加を呼びかける等の工夫をした。専門部任せではなく、全職員で対処する意識を一層高めたい。	
			実践目標	各学校行事を工夫し、生徒が地域と関わり、貢献できる機会を増やす。	
			成果	生徒会の頑張りもあり、行事自体は充実していた。文化祭では、多数の地域住民の参加がみられた。ただ、行事に参加しているはまだまだ一部の生徒なので、今後とも参加者を増やすための工夫が必要である。また本年度は、参加を予定していた長田神社商店街の「ながたイルミネーション・ライブ」（外部団体参加型の催し）がなく、地域に貢献できる生徒の活動機会が減り、さびしかった。	
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫	実践目標	キャンパスカウンセラーと教職員との交流(事例研修会)を設け、生徒理解の共通認識を深める。	
			成果	１２月７日、キャンパスカウンセラーを講師として、教職員カウンセリング・マインド実践研修を実施した。「Ｐ－Ｆスタディ図版のマンガ」を活用することで相手の欲求不満の強弱や不満傾向等が理解できるといった内容の話をされ、「視点を変えて生徒を見る・関わる必要がある」という意識を促すことができた。今後さらに、不登校生徒との関わり方や指導のあり方について、具体的な事例を通して、各自の思いや意識を深め合い高め合う研修が大切である。	
			実践目標	「相談室だより」や教育相談に関わる掲示物、学校ＨＰ等を通して、カウンセリング情報の広報に努める。	
			成果	年間に３回「相談室だより」を発行し、カウンセリングの実施日を紹介するとともに、詩を用いて教育相談室への訪問の呼びかけを行った。また、カウンセリング当日には、校舎入り口に案内を掲示した。昨年度に比べ、カウンセリング日の回数は削減されたが、相談者延数はほとんど変わらなかった。今後、カウンセリングを真に必要とする生徒がより気軽に利用できるよう、例えば、学校ＨＰでより多くの情報を提供するなど、もっと工夫をしていきたい。	
	進路指導	進路指導体制の充実	実践目標	年度当初に年間計画を全職員･生徒に示し、各時期における必要事項の確認を随時行う。	
			成果	４月当初に、進路指導に関する年間計画を全職員・生徒に配り、計画的に進路指導や進路決定ができるようにした。また、今年度から新課程の様式で調査書作成を行うので、「在校生の調査書等の作成について」という手引きを作成した。わかりやすかったという評価を得ているので、来年度も加筆訂正した改訂版を作成する予定である。	
			実践目標	進路指導部と全担任が協力して大学･短大･専修学校等の情報を収集し、ネットワーク上でその内容を共有する。	
			成果	情報収集と青雲高校の宣伝を兼ねて、積極的に各大学・短大・専門学校等の説明会に出席し、そこで得られた情報をパソコン上で共有した。また、指定校推薦の募集状況を学校ＨＰ上で公開した。	
		職業観･勤労観の育成と進路意識の向	実践目標	「仕事（アルバイト等）をする」ことを奨励し、「実際に仕事をする」ことを通して働くことの意味を考えさせ、正規就職へつなげる。	
			成果	毎月「進路のしおり」を発行し、それを通じて、アルバイト等の奨励を行ってきた。同時に、就業観や職業観を養うための講演会（年間３回）や職業人ＯＢによる講演（同１回）を開催し、またスクーリング時のＨＲ等を使って、「仕事をすること」についての意義付けや奨励を行ってきた。しかし、本校生徒の抱えている事情は多様であり、現実的には、正規就職につなげるのに困難なものを感じている。	
			実践目標	フリーターが増加する昨今、ＨＲや「進路のしおり」等の配布物、就職説明会等を通じて、正規就労の意味や大切さを十分に理解させる。	

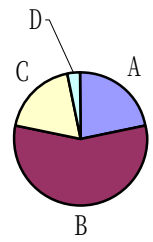
	上	成果	各種説明会を通じて、生徒達に正規就労の大切さを伝えた。給与、労働時間、福利厚生、労働者の権利等の条件面につい目がいくが、これが正規就労を難しくしている面がある。「自分がいかに社会で役に立つか」や「勇気を持って社会に出て行くことの大切さ」に視点を置いた指導の必要性を感じた。それらを踏まえ、青雲通信で、困難に立ち向かうことの大切さを訴えた。１、２年生への広報活動が不足しているとの指摘を得ており、来年度の課題としたい。	
教職員の資質向上	実践的指導力の向上	実践目標	**スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。**	
		成果	本年度、訪問指導以外で初めて研究授業（地歴公民科「地理Ａ」）を実施し、それを評議員の方にも参観していただいた。来年度以降もこの自主的な研究授業を定着させ、全教科で研究授業を行うよう目標設定したい。スクーリングごとに巡回当番を決め、午前中を中心に、廊下や外周りを巡回した。また、教頭・生徒指導部長・教務部長は、便所や空き教室の管理も兼ねて適時巡回した。生徒の生活指導・マナー指導・状況把握等に一定の効果があった。より細やかに巡回したいが、人的にも時間的にもその余裕がない。	
	計画性を持った研修の実施	実践目標	**当面する諸課題に対し、生徒指導･教務･教育相談･人権教育･情報企画等の各部署が全教員対象の研修を企画し、計画的に実行する。**	
		成果	年間を通して、各部・委員会が研修や講演会を主体的・計画的に企画立案し、それに沿って実施することができた。交通事故防止・消費者問題（６月）、薬物乱用防止・禁煙指導（１１月）、人権教育（１２月）、カウンセリング･マインド実践研修（１２月）、心のサポートシステム講演会（９月・１２月の２回）、パソコン・情報処理関係（月１回の定例研修、夏季休業中の２日間の研修、週２回のミニ研修）等である。一方、教務関係で、「新しい評価方法について」の研修や研究が進まなかったことは、大きな反省点であり、来年度の課題である。	
		実践目標	**研究指定になっている「高校生心のサポートシステム」では、外部講師を招聘した講演会等を実施し、カウンセリングマインドのスキルアップを図る。**	
		成果	「高校生心のサポートシステム」に関して、教員対象に２回の講演会を開いた。第１回は、昨年度に続いて六甲カウンセリング研究所長の井上敏明先生に講師をお願いし、９月２８日に「問われるこれからの教育助力－脳の科学とカウンセリングから探る－」の演題で講演をしていただいた。この数年間に起こった少年犯罪を例に、発達障害や適応障害等について分かりやすく話され、学校でのコンサルテーションの大事さがよく理解できた。また、２回目の講演は、１２月２２日、本校キャンパスカウンセラーの立石信一先生に「軽度発達障害への理解と対応」と題して話していただいた。先生が携わってこられた事例を中心に、特別支援教育の基本的な考え方や対処の仕方について丁寧に話され、学校が配慮すべき事などがよくわかった。	
危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	実践目標	**本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。**	
		成果	２年越しの実践目標である。他校の例を調査するとともに、県教育委員会教育企画室作成の学校危機管理ガイドライン等を参考にして、本校に合った実効性のあるマニュアル案を作成しようと取りかかった。しかし、通信制高校の実情に即したものを作ることは予想以上に困難で、各部署に対して、案を提示し、意見を求めるまでには至らなかった。来年度こそ、本校の実情に応じた危機管理マニュアルを完成させたい。	
	家庭･地域･関係機関と連携した危機管理体制の推進	実践目標	**「通信制高校に合った家庭･地域･関係機関との連携体制」を検討･工夫し、防犯に関する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組みを行う。**	
		成果	本校独自の危機管理マニュアルがまだできておらず、本年度は、従来から実施してきた校門での立ち番や校舎内の巡回、所轄の警察との連携等を中心とした安全管理体制のもとで、スクーリングや文化祭・卒業式等の行事を行った。なお、教職員の安全対応能力の向上を図るための新たな取組みとして、来年度から本校は、教職員全員が名札を着け、生徒や来校者に対して身分を明らかにすることとした。安全対応への一助となると考えている。	
		実践目標	**レポート･スクーリングの一環として、社会体育施設や公的機関を訪問し、その業務内容について報告するような教材を工夫･設定する。**	

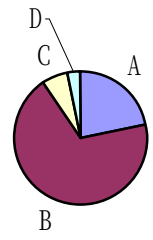
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	成果	「総合的な学習の時間」や公民科の学校設定科目である「社会入門」に関するレポートで実践した。例えば、「社会入門」では、受講生徒に、市役所や町役場・博物館・史跡等の身近な公的施設を訪問し、見聞を広め、レポート化することを求めた。「学習目的での公的施設の訪問」など、ほとんど経験がなかったであろう生徒達にとって、緊張感を与え、よい成果を挙げたと考える。ただし、対人接触の苦手な生徒もおり、彼らへの対処策や工夫が今後の課題である。
			実践目標	**県立神出学園と連携し、多様な体験課題を与え、その解決に当たらせる。**
			成果	本校では、県立神出学園での活動を本校の教育課程上に位置づけ、「体験活動」の単位を認定している。活動の具体的な実施内容については、電話等で事前に連絡を取り合っている。１１月には、教頭と教務部長が神出学園を訪問し、園内の施設設備等を見学するとともに、在籍生徒の「体験活動」の状況について報告を受け、話し合った。フリースクールとの連携は、本校独自の試みであり、来年度以降もより連携を密にし、内容の充実を図りたい。
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	実践目標	**各教科で評価基準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を行う。**
			成果	各教科とも、長く培ってきた評価基準に少しずつ改良を加えた形で評価をしている。現在、「観点別の新しい評価基準」を踏まえて、新たな改良を行っている段階であるが、足並みがそろっているとはいえない。先行している教科のノウハウを全体に提供する場を設ける必要がある。本年度はこの研修ができなかった。なお、現在動いている校務支援システム（コンピュータによる成績管理システム）そのものが、絶対評価に充分対応できていない。次期システム導入時には、これらへの対応が十分になされておらねばならず、来年度中に検討を終える必要がある。
			実践目標	**本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指した学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。**
			成果	数学科と英語科は、平成６年度よりそれぞれ「数学基礎」（現「数学入門」）・「英語基礎」(現「英語入門」)を開講し、上位の科目につなげている。また、地歴公民科においても、平成１５年度より「社会入門」を設置し、概ね実績を挙げている。今後、既存講座の内容を充実させていくとともに、生徒の実態に即した学校設定科目をより多く設置していきたい。
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	実践目標	**「総合的な学習の時間」についての委員会を定期的に開催し、3年間を見据えた計画を立案し、実施する。**
			成果	「総合的な学習の時間」を担当する教科横断型のグループ別組織が確立しており、「国際理解」、「福祉健康」、「環境」の各講座は円滑に運営されたと考える。今後は、講座内容の更なる充実を図っていく。
			実践目標	**生徒の興味・関心や適性を的確に把握し、そのニーズに合った学習テーマを設定し、全教員が一致して取組む。**
			成果	本校には、多様な生活背景を持つ生徒が在籍している。彼らの一人一人が求める最良の学習内容を、限られたレポートやスクーリングに的確に反映させることは難しい。そんな中、本年度は夏と冬に２回、校長も参加して学校と生徒会との座談会を開き、生徒達から学校に対する要望や思い、学習面・生活面での希望や願い等を聞いた。今後とも、いろんな機会を通じて生徒のニーズを把握し、それに沿って、学習テーマの改良・改善を図っていきたい。
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	実践目標	**新しい評価方法について、全教員が研究し、各教科の評価について意見交換を行う。**
			成果	教員には、「新指導要領における各教科の評価の観点及びその趣旨」・「県教委発行の中学校の評価基準及び評価基準の例」・「国立教育政策研究所の評価基準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(高等学校）」を資料として配布しているが、本年度、研修はできなかった。現行の評価基準でプログラムされている校務支援システムとの兼ね合いもあり、この２・３年のどの段階でどう切り替えることができるのか、段取りを明確にする必要がある。来年度は、新しい評価方法や現行システムとの兼ね合いについての研修や研究を具体化したい。
			実践目標	**公開授業の実施等で授業の改善を目指し、本校生に合ったスクーリングのあり方を検討する。**

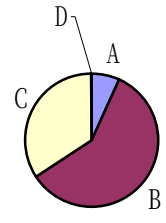


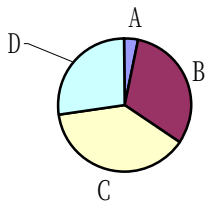


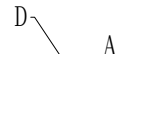


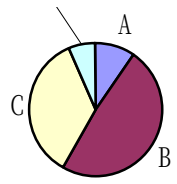
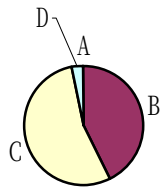
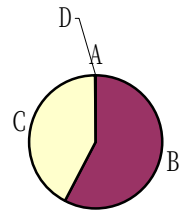
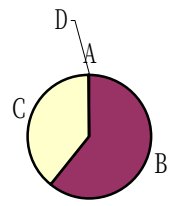
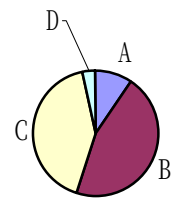
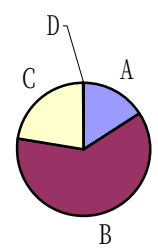
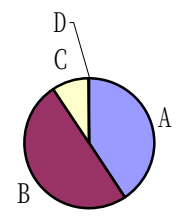










			成果	学校評議員会が開かれる日に合わせて、地歴公民科「地理Ａ」の公開授業を実施し、評議員の方々にも参観していただいた。その後、評議員の方々には講評をいただいた。さらに、授業担当者と授業を参観した教師達とで反省会を持ち、意見交換をした。その際、「事後評価シート」を配布し、問題点を話し合った。非常に有意義であり、今後も継続させたい。	
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	実践目標	**災害発生時に生徒が的確に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。**	
			成果	防災マニュアルには教職員それぞれが一通り目を通しているが、本年度は全員が集まっての研修会的なものが実施できず、十分に周知徹底できているとは言えない。来年度は、よりわかりやすいマニュアルを策定し、職員・生徒が災害時にスムーズな初期行動が取れるように工夫したい。	
			実践目標	**防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにしたＨＲ指導が行えるようにする。**	
			成果	防災マニュアルについては、職員・生徒への説明及びその徹底が十分にできなかった。来年度は、現行の防災マニュアルを改訂するとともに、職員・生徒への周知徹底を図る。一方、交通安全に関する研修会については、６月２７日、兵庫県弁護士会所属の弁護士を講師として招聘し、交通事故を起こしたときの民事上・刑事上及び行政上の責任等について生徒・教員がともに研修した。その講演会に参加できなかった生徒には、教員がＨＲで指導した。	
	人権教育	人権教育推進体制への取組	実践目標	**長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習に取り組む。**	
			成果	本校のＨＲを使った人権学習は、例年、４つの年次が同一テーマを同時展開で実施している。本年度は、「もしもあなたが親なら」というテーマを設定し、客観的な視野で自己をみつめるための学習を行った。他者の立場に立ってはじめて、見えてくる自分に気づいた生徒もいる。長期的な視野にたつために、多くの実践例の蓄積が必要だと考える。	
			実践目標	**多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部と緊密な関係をとり、生徒の「個」に合わせた人権教育推進体制を構築する。**	
			成果	在籍する生徒のバックグランドが、ますます多様化しているにもかかわらず、十分な対応ができていない。しかし、生徒の「個」に合わせた人権教育の必要性は、教職員の間にも深く認識されてきている。来年度には、具体的な形で成果を生み出したい。	
	新しい通信制教育	e-Learningの実施による新しい通信教育の実現	実践目標	**本格的なe-Learningの実施に向けて、全教科でWebによる教材配信や新教育システムを使った電子レポートの実施等の取組みが行なえるようにする。**	
			成果	Webでの教材配信を行う教科・科目は昨年度より増加したが、教材の種類や数の増加は当初の予定を下回った。生徒からすれば、自分の到達度に応じた教材が多ければ多いほど魅力的なシステムとなる。今後は教材の増加が課題である。一方、電子レポートについては、本年度の途中から「情報Ｂ」の科目で試行を始めた。来年度は、「情報Ｂ」で本格実施し、その結果を踏まえて他の教科科目に広げていきたい。	
		e-Learningの実施に向けた教員の取組み	実践目標	**e-Learningの実施に必要な教員のコンピュータリテラシやセキュリティ、個人情報の保護等に対する意識の向上を図る。**	
			成果	本校は、教員一人一人にノートパソコンが整備されており、職場での私物パソコンの利用をすでに禁止している。また、研修等を通じて、個人情報の保護等に関する意識の向上を図っている。コンピュータリテラシに関しては、月例研修・週２回のミニ研修及び外部講師を招いての夏期休業中の全日研修等を計画的に行い、スキルアップを図った。	